

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

✓ **BLACK BORDERS**

- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Problem Image Mailbox.**

公開実用 昭和62- 76767

A4

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭62-76767

⑬ Int.Cl.⁴
B 62 D 1/16

識別記号 庁内整理番号
8009-3D

⑭ 公開 昭和62年(1987)5月16日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ステアリングコラム取付構造

⑯ 実 願 昭60-166717

⑰ 出 願 昭60(1985)10月31日

⑱ 考 案 者 滝 川 善 治 岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗
用車技術センター内

⑲ 出 願 人 三菱自動車工業株式会 東京都港区芝5丁目33番8号
社

⑳ 代 理 人 弁理士 岡本 重文 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

ステアリングコラム取付構造

2. 実用新案登録請求の範囲

車体前部に水平横方向に配置されたクロスメンバーにステアリングコラムを前記クロスメンバーに交差して取付けたステアリングコラム取付構造において、水平断面が台形をなすコラムブラケットを前記クロスメンバーに交差して固着し、U形のコラム取付ブラケットを介し前記コラムブラケットにステアリングコラムを固定するようにしたことを特徴とするステアリングコラム取付構造。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は自動車のステアリングコラムを車体前部に取付ける構造に関する。

従来の技術

車体前部にクロスメンバーを水平横方向に配置し、前記クロスメンバーに水平断面が角形をなすコラムブラケットを固着し、第3図に示すような


(1)

コラム取付ブラケットを介し前記コラムブラケットにステアリングコラムを固定していた。

考案が解決しようとする問題点

従来技術によると、衝突等で乗員が前方に移動した場合、乗員の膝がコラムブラケットのステアリングコラム取付面に衝撃し、膝を損傷する惧れがあつた。

問題点を解決するための手段

車体前部に水平横方向に配置されたクロスメンバーにステアリングコラムを前記クロスメンバーに交差して取付けたステアリングコラム取付構造において、水平断面が台形をなすコラムブラケットを前記クロスメンバーに交差して固着し、形の取付ブラケットを介し前記コラムブラケットにステアリングコラムを固定する。

作 用

コラムブラケットの水平断面を台形とすることにより、乗員の膝の前方空間を広くできる。

衝突等で乗員が前方に移動し、乗員の膝がコラムブラケットに接触した場合、コラムブラケット

の側面が乗員の膝を両側に誘導する。

実施例

第1図、第2図において、1は車体前部に水平横方向に配置されたクロスメンバー、2は水平断面が台形をなしクロスメンバー1に交差して固着されたコラムブラケット、3はU形をしたコラム取付ブラケット、4は上部にステアリングホイール（図示せず）を固定したステアリングシャフト5を回転可能に支持するステアリングコラム、6はステアリングシャフト5の下端に設けられたユニバーサルジョイントで、フロアパネル下側のステアリング機構（図示せず）に接続する。7はコラム取付ブラケット3を介してステアリングコラム4をコラムブラケット2に固定する取付ボルト、8はコラム取付ブラケットとステアリングコラム4とを固定するボルトである。このように構成されているので、ステアリングコラム4はコラム取付ブラケット3、コラムブラケット2を介し、クロスビーム1により支持される。

コラム取付ブラケット3のボルト間隔 α は従来

(3)

装置におけるボルト間隔（第3図のb）よりも狭くなるので、取付強度が増大する。

またコラム取付ブラケット3は、第3図に示すような従来品よりも曲げ（絞り）加工が容易である。

衝突等の際に、乗員の膝が前に移動すると、第2図の矢印に示すように、乗員の膝はコラムブラケット2の斜面により左右に誘導される。

考案の効果

1. 乗員の膝前方の空間が広くなり、衝突等で乗員の膝が前方に移動した時は、コラムブラケットの斜面が乗員の膝を左右に誘導する。

従つて乗員の膝の損傷を軽減できる。

- ロ. コラム取付ブラケットの強度を増加し、且つ加工を容易にしうる。

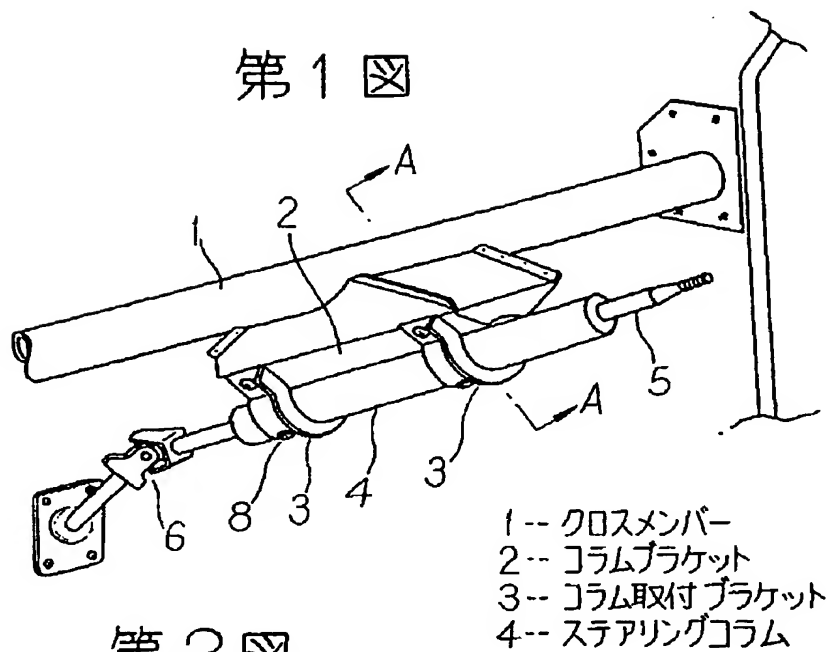
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案ステアリングコラム取付構造の実施例における斜視図、第2図は第1図のA-A断面図、第3図は従来のコラム取付ブラケットの斜視図である。

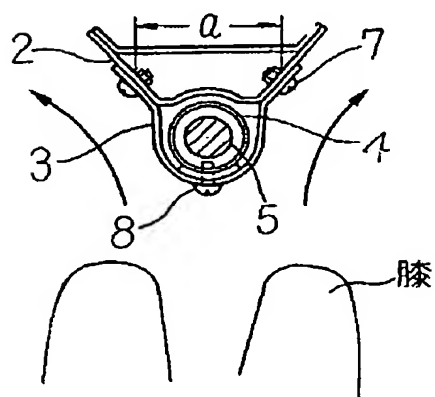
- 1…クロスメンバー 2…コラムブラケット
3…コラム取付ブラケット
4…ステアリングコラム

代理人 弁理士 岡 本 重 文
外 2 名

第1図



第2図



第3図

